

# 香葉



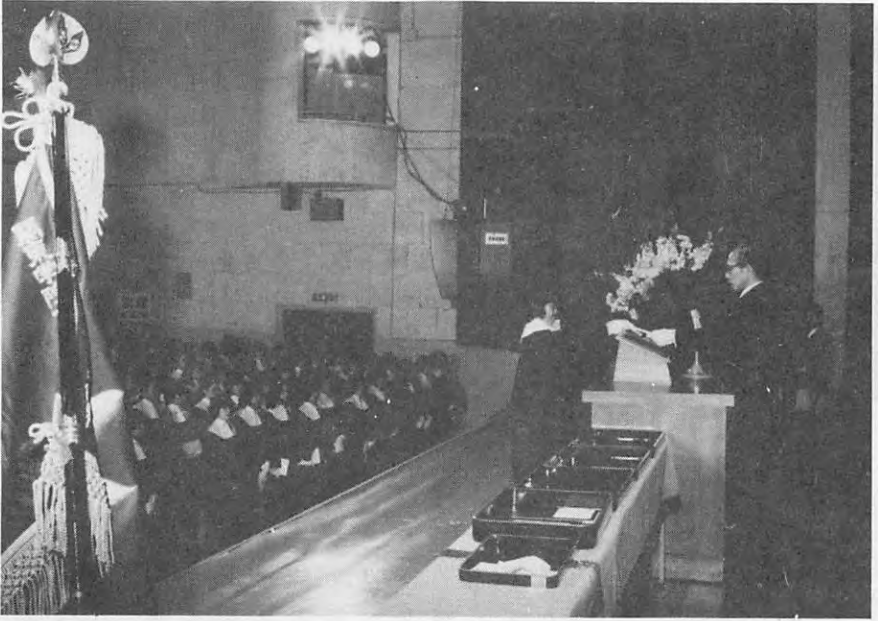
1977

NO. 7

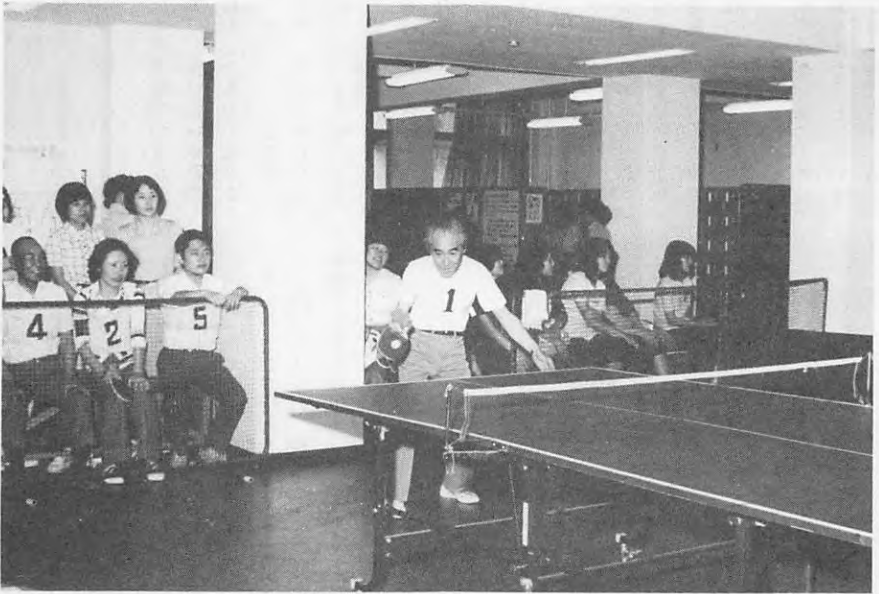


## 目 次

グラビア	1
退職にあたって	2
“How Great God Is!”	3
「香報室」	4
香葉会総会のご案内	6
女専同窓生合同クラス会	7
コーヨースポットライト（信仰と機会）	8
「展 望」	10
覚え書(七)——女専・短大小史	14
五十一年度総会報告	16
賛助金をご寄付くださった方への御礼とお願い	18
母校ニュース	19
編集後記	20



卒業式 52. 3. 17



体育祭 51. 6. 17

# 退職にあたって

## 檜垣好子

私は今年で三十年の教職生活に、終止符を打つことになりました。省みますとこの間にはうれしかったこと、悲しかったこと、楽しかったこと悲喜交々の事件がつつづいています。特に関東学院の生活には多くの思い出があります。

本年三月で退職された檜垣先生にお願いして、これまでの思い出、感想等を卒業生むけに書いていただきました。

創立そして苦難の途、やがて黎明の日が来て勢いよい校運に至るまで、長い長い旅路でした。この長い旅路を私のごとき力の足りない存在がよくてえ抜いて来た、今更ながらしみじみ述懐する次第です。そしてまわりの色々のお守り、指導援助とはげましがこまでなしとげられた原因だと考える時、見えない神のお導きと学校当局の寛大なおはからい特に卒業生の皆様のお力添とはげましは何とお礼を申し上げてよいやら、それはとうてい言葉では言い表わすことが出来ません。それに引きかえ、私の力の足りないために、のびるところも伸び得なかったことの多いことを思い、お恥ずかしく姿勢を正してお詫びせねばなりません。私は今、改めて関東学院女子短大が今後ますますよき発展を遂げ、その使命を果し、世に大きな奉仕の出来ませうお祈りいたします。

やがて、一大学園として平潟の地に、美しくもけだかい校舎が整備されようとしています。私の本学院の大きな夢はただ大きくふく

らむだけです。私はこれからは家庭にあつて私のささやかな趣味を生かし、余生をおくりたいと思っております。どうかお暇のせつには過ぎし昔の思い出を語りにお出かけ下さい。これが私の今後の何よりの慰めであり楽しみです。そして私の生き甲斐でもございます。

尚私は静かな生活の中にも常に皆さんと共に若く生き生きとしたその日その日を送りたいと思っております。最後に皆様の御多幸と御健康を心からお祈りいたします。



## “How Great God Is!”

If you visited our school now, you might see some large attractive felt banners hanging in the corridors, made by the English Bible Elective class last year. They express words that reflect the nature of our school, founded on Christian principles. One of them reads, “How Great God Is!”

If you came to Kanto and left without a knowledge of God's Great Love to us through Jesus Christ or without realizing that all the beauty of nature that surrounds us is God's Own Handiwork, you missed the most important ingredient that was to be found here for a happy fulfilled life.

Some people say that the world “just happened”. Did you ever see any perfect thing accomplished that “just happened”? Perfection precludes creative thinking and planning and masterful execution. Have you ever considered how wonderfully God has made His creation?

Did you know that oranges and lemons always have an even number of segments, unless there is a false segment within another, and grapefruit always has an uneven number, usually eleven or thirteen. Striped watermelons always have an even number of stripes. Beans climb around the pole left-handed. If they are unwound and put right to left, they will die in three days.

In the mineral kingdom, salt crystals are always perfect cubes, but sugar crystals are never found as cubes. Did you know there are four or five combinations of oxygen and nitrogen, all injurious to the body, except one. Yet the air we breathe is exactly what is needed by the lungs to produce health and vigor. Where does God make the oxygen and where is the nitrogen formed and where are the two mixed together in the correct proportions? No one understands it, but we enjoy breathing it and God does the rest. “How Great God is!”

But the greatest miracle of God is the transformation that takes place in the life of an individual who believes in Jesus Christ, God's Son, who came to die in our place to take away our sins and give us Eternal Life. Then His Spirit lives within, giving strength, wisdom, confidence and peace.

How long has it been since you have read YOUR Bible? Read the book of John and see how Christ talked with those who came asking vital questions of life. The Bible is a “lamp to your feet and a light to your pathway” and Christ is the Way to God.

Rene E. Swezey  
Missionary and teacher.



五十年七月十五日に退職され、米国に帰国していらしたミセス・スウィズー先生が再び、日本に来てくださいました。現在英文科の専任講師として、活躍していらっしゃいますので、お願いして書いていただきました。



この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、等の発表の場として用意いたしました。短大香葉会「香葉」編集局宛、次号への原稿を随時お送り頂きたくお願いいたします。

## 青春の思い出

菊池 忠子

早いもので短大を出て、もう十七年になります。ルツ寮での二年間では、北は北海道から南は沖縄までの寮友とともに、いろいろなものを見、聞き、体験をし、多くのものを学び、多くの生涯の友を得ました。今も時々、一人ひとりの顔を思い浮べて懐しんでいます。一度、盛大にルツ会でも開いて全員集合してみたいなと考えています。

二年間、英文科に籍を置いたものの、田舎っぺの悲しさ、人前で発言する自信もなく、ミス・コールターに英会話を習うより、関西弁を覚えてしまわれ、仏語の兵藤先生——仏語は「ワイ」位しか覚えていないけれど、そのお人柄と仏文学にあこがれ、英米文学の柳生先生——名調子の訳文にひきこまれ、英米文学の心を知るためにはキリスト教を知らなくってはとクリスチャンになった私。やさしく厳しかった小玉先生——担任として特に寮生にはこまやかなご配慮をいただきました。

学院時代、すばらしい先生/良き先輩/良き友に恵まれ、悔いのない青春を送れた事は感謝でいっぱいです。現在、二男二女に恵まれ、(主人も元関東学院生)充実した日々を過ごしています。自分達の住んでいる地域をよりよくするために、子供達の良き集団作りのために、PTA、名古屋親子劇場、名動生協、読書会などの仲間と共に精一杯頑張っています。たまに、挫折しかけた時、疲れていってしまった時、ふと、校訓「人になれ、奉仕せよ」を思い出します。在校当時はあまり気にとめていなかったようでしたのに、いつの間にか心の奥深くに生きていたのですね。関東学院のご発展をお祈りしています。

(短英三十五年卒 旧岡田)

## 再会のよろこび

清水 明子

先日、私は小学校時代の親友と再会しました。中学校が別々で、お互いに会う機会がな

くなるので、これからも仲良くするために、『すいれん会』という会を発足させ、会うことにしました。しかし、中三の頃になると忙しくなり、自然と離れてしまいました。それが今度、チャンスに恵まれ、何んと十年目に会うことができたのです。互いに今までの経過や小学校の思い出、同窓生の消息などを話しているとは十年過ぎたとは思えない程、小学時代そのままのような気さえしてまいります。しかし、私達も二十代に入り世間をかいま見ながら大人となった今、同じような問題で悩み苦しんでいる姿を目前にすると、あの頃純粹に笑い、無邪気に言い合っていた時を思い起こさずにはいられませんでした。

一人が、『すいれん会』の貯金（遊びに行った時の残金）を預かっていてくれたのを知った時は、うれしさでいっぱいでした。そのわずかな貯金を十年間大切に保存して下さったことに感謝せずにはいられませんでした。記念にその貯金を分け合い、友情のお守りとしていくことにしました。

多数の人々と出合い、通りすぎてきた現在その人々の再びめぐり会った時のよろこびや感激は、いかに表現しても表現しつくせないくらい胸に浸るものであり、今回再会して友

達のありがたさをつくづく感じました。

（短国四十八年卒）

## 夢、いろいろ

牧野和佳江

近頃、夢をみすぎて疲れている。あるいは疲れているから、夢をみるのかもしれない。そのような因果関係はどうでもいい。とにかく、連日色つきの夢をみている。夢というものは、目覚めてから思い出そうとすると支離滅裂で、内容を物語るなど不可能な場合が多い。しかし色つきの夢は、内容はうる覚えでも、ある一場面があたかも一枚の絵のように強烈な印象として残る。その色は、ほとんど原色に近い鮮やかさなので、一層印象深いかもしれない。目覚めても、夢の印象が強烈でひどい疲労を感じる。

私は夢をみるのが好き（？）なので、どうせなら色がついていないより、ついていた方がおもしろい。けれどもそれが連日続くのは、やはり閉口してしまう。毎日のおたりまへの生活が始まっても、その夢の印象が一日中ついてまわる。まるで、その日一日が夢の支配

下にあるような気さえする。

『古都』を読んでいたら、主人公のみた夢が、ほんの少し書かれてあった。やはり色つきだった。そういえば『夢十夜』にも色つきの夢の話が出ていた。その気になって探せばもつといろいろな例がみつかるかもしれない。『夢』という語は、日本人の心に不思議な、魅惑的な音楽を奏するものであるらしい。

昔から、詩歌や日記や物語におびただしく使われている。いにしえの人々は、どのような夢をみ、どのような夢に生きたのだろうか。久しぶりにそれらを手にしてみたくなった。いろいろな夢が語られ、つづられていることだろう。机に向って、それらを学んだ日から、もう何年が過ぎたのだろうか。まるで夢のようである。

（短国四十九年卒）

## 自由な時間

大石容子

女性の一生において与えられている「自由な時間」とは、ごくわずかで、学生時代、特に短大の時、あるいは結婚前までの数年間だ

と思います。そのわずかな時間が大変貴重ではないかと考え、私は自分なりに大切に過ごしたし、また現在もそうした気持で毎日を送っています。

短大時代、私は旅が好きだったこと、多くの友を得たい気持などからユースホステルクラブに入り、二年間を有意義に送りました。そこでは旅の魅力、人間関係の尊さ、そして難しさを経験し、今の私にとって大きなプラスになっていることは言うまでもありません。仮に私がクラブに入っていなかったならば、それらの貴重な体験はなかったでしょう。

短大卒業後、私は専門学校に行き、自分の好きなことを、この一年間やってきました。そして、今も好きなことをしている私です。いつまでも好きなことをするということは、大変難しいことだと思うと、私は大変恵まれていると思います。それは家族の協力があったとそだちと思っています。私はこれからも家族に甘えて、後悔のない時を過ごしていきたいと思えます。

(短家五十一年卒)

## 香葉会總會のご案内

新緑の美しい季節になりました。皆様にはいよいよ、お健やかにお過ごしのことと、よろこび申し上げます。

さて、この度下記のように本年度の總會を開催の運びとなりましたので、ご案内申し上げます。お誘い合せの上、ぜひ、多数お出かけ下さいませ。

### 記

- 日時： 昭和52年6月26日(日)  
p.m. 1:30~3:30 受付1時より。
- 会場： 相生6フレセプションホール  
横浜市中区相生町4-67  
TEL. 045-681-1661(代)
- 会費： 2,000円
- 申込： 6月20日迄に香葉会事務局宛、電話、又はハガキでお申し込み下さい。

尚、当日のプログラムに、岡松和夫国文科教授(第74回芥川賞受賞作家)のお話を、お願いしてあります。

昭和52年5月

〒236 横浜市金沢区六浦町4834

045-781-0148

関東学院女子短期大学同窓会

香葉会 代表 古城房子



## 女専同窓生合同クラス会

—創立三十年を記念して思い出の三春台で—  
昭和五十一年十月二十三日秋晴れのその日、

かつての乙女達はあふれる思いであの石段を登って行き、昔の面影残す学び舎で、ヒーんとした懐かしさのその中で、しばし青春の頃にかえって語り、歌い、それぞれ新たな思い出を胸に再会を約して別れて行きました。あの石段の道はまさにタイムトンネルのように…。

出席者は恩師田友およそ七十名、遠くは関西、北陸、海を越えて米国からも集いました。

後日、多数の方々から寄せられたお札や御感想の中から一言づつ、御紹介して報告に代えさせていただきます。

「ほんとに何十年振りに逢った方が多く、胸がしめつけられるようでした。」 相川先生

「あの日の写真と名簿によって関東学院女子専門学校が再現したような感じ。」 時田先生

「諸君の変容のすさまじさは、まことに驚くばかり…」 川端先生

「懐かしい顔を見出し三十年が吹き飛んでしまった様な気がしました。」 英一中嶋貴美子

「学校時代話す機会がなかった方とも今度の集りて新しく友の心を再発見することができ

たりとても有意義でした。」 家一吉岡八重子

「みんなちつとも変らない。誰かの言葉ではないけれど、死ぬまでお互いに心の支えになつてくれる友達ばかりでしあわせてです。」 英一安沢みね

「楽しかったあの日のお陰で、すこく若返つた感じですよ。」 英一坂元英子、英三福田道子

「こんな会がまた持たれるよう、懐かしかった校庭の石段を歩きながらおしゃべりの帰路でした。折角の機会を楽しめなかった友人には電話や手紙でお知らせしました。」 英二平尾富子

「その夜は興奮して、なかなか寝つかれませんでした。」 事務松本久子、吉岡八重子

「三十年経つての再会でも同じ学び舎で過ごした方々とは気楽に話し合えるしあわせをつくづく感じました。」 家一吉田弘子

「卒業以来、一度も逢わなかった方々に接して非常な感激でした。」 英三内田駒子

「楽しみにしていた一日、もつと皆様と語り合いたかった。一番楽しかった女専時代は忘れられない青春時代。」 英子科大石豊代子

念願のこの集いが実現できたのは、関東学院中・高校始め多くの方々の特的な御好意と熱心で強力な同志の御尽力によるものと深く感謝している次第です。

女専家一佐藤久子



# コーヨースポットライト

毎回同窓生一人が登場していただき、生活・仕事・趣味などを通しての経歴談を書いていただくページです。

このページに登場していただく同窓生を恒大音楽会「音楽」編集局宛、推薦してください。

## 信仰と機会

### リーデイ実子



最近知り合ったある母親が、子供を何とかして東京の某私立学校に入学させたくて、身も細るばかりに神経をとがらせていたある日、私にこんな質問をした。「もし親がクリスチャンだったら多少有利でしょうか。」私は即座に、「そんなことはないと思います。」と答えたがそれでもこの母親は興奮した調子で、「子供のためでしたら私はクリスチャンに何でもなりません。」と言った。

この頃の親は、自分達が実現し得なかった夢を子供達に託する傾向があるとよく批判される。テレビのコマーシャルにもこんなのが

ある。七五三のお祝いに自分は晴れ着を着る事ができなかったけど子供には是非という様な意味の宣伝文句である。物質的な事や、又進学に関する事ばかりでなく、情操教育に関してもそうである。例えばキリスト教教育の一端として子供達の通っている幼稚園や小学校で、教会へ行く事などが奨励されると、日曜日にはセツセと子供達を教会へ送り出す。子供に自分の夢を託し、期待をかけて、私達母親は無我夢中で日々を過ごしているが、フトこの自分はこれでいいのか……と戸惑うような事はないだろうか。私も学生時代にキリスト教の話聞いた。礼拝にも出た。教会にも行った事がある。そして今、私に残っているものは……？

私は学生時代学校を休むのが嫌いだった。たまに具合が悪くてどうしても休まなければならぬ時などは、自分が休んでいる間にみんながどんどん進んでしまうのではないかと気が気ではなかった。又たまたま自分が休んだ時に限って何か大切な事が語られ、自分は大損害をするのではないかという心配があった。私達の人生にはいろいろな機会がめぐってくる。勉強する機会、教会へ行く機会、たぬになる話を聞く機会。そして機会というものは、今与えられているのだと自覚しているものもあれば、又知らない間にきて、知らない間に通りすぎてしまうものもある。機会というものは何回も訪れる機会もあれば、一度きり来ない機会、又それを逸してしまうと永久に後悔するというような重大な機会もある。矢内原忠雄が「人生と自然」という本の中でこんな事を言っている。

「自分の目の前に機会が通るとき、その機会を見失うことなくして、与えられた機会を捕えること、これが人生における大切な瞬間であ

ると思います。われわれの目の前を信仰を得るための機会が通り過ぎますときに、これと気がつかないで見送ったり、あるいはうすうす気がついて見送ってしまうということは、人生最大の損失であると思います。」

二年前の事になるが、長女が青山学院の幼稚園に入園して間もなく、はじめて出会った私よりずっと若いお母さん達の間で、小さくなくて子供の帰りを待っていた私に、ツカ／＼と寄ってきてニコヤカに口をきいてくれた一人のお母さんがいた。私達家族の行っている麻布の安藤記念教会に坊ちゃんを連れて行っているという話だった。それからよく注意していると日曜日毎にこのお母さんは子供と一緒に教会学校に来ていた。四月、五月は子供達が多くて先生が一人で大変なのを見かねて、「私はどうせ暇で、子供を待っているのですからできる事があつたらさせてください。」となかなか積極的だった。そして子供達の礼拝の時間には後の方にひかえ目にすわっていた。

「こうしているとさわやかな気持になるので……。」といっていたのが印象的だった。このお母さんはものすごくきれいな人で、いつも髪を整え、盛装していた。余程豊かな生活をしていただけで、冬のコート等私が見えない程何着も取りかえて着ていた。ある時、幼稚園でバザーの打合せがあつた後、他のお母さん達と私の家にお茶に誘つた。お勝手で洗い物などしながら、親しくおしゃべりをした。よい機会だと思つたので、「教会の大人の礼拝にも是非いらして下さい。よろしかったら婦人会にも……。」と誘つたら、「実は私は結婚する前から体が弱くて、母と一緒にある神さまに占つてもらつたんです。そこにずっとお世話になつてるので……、もし私が

キリスト教の神様の方へ行つたら、その神様が嫉妬するのではないかと思うのです。」と、はつきりした口調で言うのでそれ以上すすめなかつた。昨年卒園間近に私の家に食事に誘つたが、たまたま病院へ行くとかで都合が悪く見えなかつた。次に会つた時、「どこかお悪いのですか。」と聞いたら、「不正出血があるので調べてもらったけれど何ともなかつたようです。」という話だった。三月未引越しをするとかで、教会にももう来られないという挨拶をして去つて行つた。私とこのお母さんとのかわり合ひはそれだけの事で、その後会う機会もなかつたが、今年の二月、ある人から「Aさんが、ガンで亡くなりました。」という電話をもらった。三十一才だったという事もその時はじめて知つた。ものすごく冷えた土曜日の午後、私はどうしてもという気持にかられて、Aさんの告別式に参列した。お焼香をする際、見るともなく顔を上げると、家族の人達と一緒に坊ちゃんがお父さんらしい人のそばに行儀よくすわつて、大きな稿のハンカチーフを顔一杯に広げて悲しそうにしていた。これからこの子供の将来は……と、いろいろ思いめぐらしながら、雪がちらつく寒い日の午後、何ともやりきれない思いで家に帰つてきた。

人の生命というものは本当にはかない。そのはかない一生をいかに生きるか……という問題は、学生時代に哲学を勉強し、宗教を学んで考へた。しかし、勉強や思索する事を子供にばかり期待しないで、私達自身がたしかなのをとらえるまで、めぐつてくるあらゆる機会を利用して、真剣に考へる姿勢が、私達母親に必要なのではないだろうか。

# 展

# 望



このページは先生方に原稿をいただいたり、編集委員が先生にインタビューしたものを納めました。

## 藤棚のみえる部屋



杉野先生

いくつも小高い丘を越えて、春うららかな日に、私達は海老名にある杉野先生のお宅を訪問しました。

私達が先生の書齋に通されて、まず、驚いたのは、所狭しと置かれた本の山です。近代文学の雑誌や書物が、あふれているという感じでした。

「だいたい、本をどのくらいお持ちなのですか。『ウーン、僕は、あまり数えたことがないんですよ。となりの部屋や物置きなんかは積んであるし、高校にいた頃からの古典関

係の本を含めると……。」（一生懸命考えていらつしやる先生と一緒に、私達も必死で推定したところ、書齋だけで数千冊はあるように思われました。）「建売りだから、僕の部屋、沈んでしまうかもしれないな。いまのところ大丈夫ですが。」

「ところで、休みの日にはどうなさっていらつしやいますか。」「たいてい日曜日は、朝の国会討論会を見ますね。他に用事がなければ、そうだな、調べものをしています。」「原稿をお書きになっているのですか。」「二つあるんですが、いま書けなくて困っているところですよ。』そして、プロレタリア文学、転向文学について、熱のこもったお話が続き、それに関して、大事になさっている雑誌や、幻の雑誌と呼ばれた「銃架」の創刊号を手に入れたときのことなどを話してくださいました。

（この間に、柔和な奥様と先生にそっくりの可愛いお嬢様からの差し入れが度々ありました。）

陽は傾むき、本と本との隙間の窓からはもみじが、大きな窓からは藤棚が、風に優しく揺れていました。私達は先生と先生の御家族にお暇を告げて帰りました。

（黒坂・中石記）

## 「卒業生として、 母校教員として」



御園 和夫

昭和四十年三月、関東学院短期大学英文科  
二部を卒業した。その後、他大学へ編入学し、  
修士課程終了後、母校に奉職させていただい  
て九年目になる。短大二部を卒業したこと、  
母校にむかえてもらったことを大変誇りとし  
ている。

「開かれた大学」としてのかつての二部が  
廃止されてしまったことはさびしい限りであ  
る。だが、現在も親交を保っている何人かの  
友人を得られたことは、この上なく大きな収  
穫であった。今でもよく集まる。先日、海  
川、下園両氏と伊豆長岡へ一泊、花を見なが  
ら湯につき、「あれから十二年もたったが  
なあ」などと感慨を新たにした。

短大二部に通って、もう一つ大いに感謝し  
なければならぬことがある。それは、すば  
らしい師に出会えたことである。

NY教授は身体の大きさもさることながら、  
人間としてのスケールの大きさを感じさせた。  
今もお元気で、学生と奥様に慕われつつ、お  
健やかに英文学を講じておられる。本学伝統  
のシェイクスピア劇とは切っても切れない先  
生である。

S K教授からは英語音声学を教授いただい  
た。テキストに出てくる図、述語とも初めて  
目にするものばかりで、学生一同目を白黒さ  
せたものだ。でも、ボイン（母音）とかコイ  
ン（子音）とか言い合いながら、何とか点は  
ナインにならずにすんだ。このS K先生の学  
問上の方法論はなかなかしつかりしており、  
現在私自身もその分野をほんの少しばかりか  
じっているが、そのきっかけを与えて下さっ  
た。ありがたきあわせである。S K先生は  
現在でもお元気で、おしとやかに音声学を講  
じておられる。

H S教授からは英作文を教えていただいた。  
英語をしっかりとたたき込まれた。教室では大  
変にきびしい先生だが、休み時間には、いろ  
いろ学生の相談ごとについての下さる。まこと  
に教師の鏡のような先生である。私は自信を

もって学生を落とせる教師でありたいと願っ  
ているが、その点に関してはH S先生を見習  
いたい。このH S先生が今年から本学におい  
ていただけないのはとても残念である。本学  
で十数年もの長きにわたって、教鞭をとって  
いただいたことに深く感謝したい。

S S教授からは「キリスト教」をひもと  
いていただいた。現在では先生は短大長とい  
う要職にあり、まさに十字架を背負っておら  
れる。

アメリカ小説、劇について教授されたH A  
教授は最近英米留学を終えられ、相変わらず  
多忙である。言語学を講じて下さったN T教  
授はますますお若くなる感じがする。そのほ  
か、歴史のS教授、J K事務長など、まだま  
だここにあげさせていたきたい先生方がお  
られるが、紙面の都合で割愛させていただく。  
とにかく、こういう先生方のおかげで自分  
の今日あるを思うと、頭をあげる時がないく  
らいである。研究、教育にさらに励むことに  
よって、少しでも恩を返したいものである。

〔短英二・四十年卒、本学英文科助教〕

なお、先生は現在「百万人の英語」（文化放  
送、日本短波放送）ラジオ講師をしておられ  
ます。土曜日には是非聞きましよう——編集  
部注〕

## 「おもむきのある生活」



### 山口先生

小雨の降る土曜日、私達は食物栄養専攻で教えていらつしやる山口先生を磯子のマンシヨンにお訪ねしました。先生は紅茶の中の桜の花を浮かべて迎えてくださり、二人は春を感じさせるその趣に感激してしまいました。「紅茶だから香りはちつてしまうけど、きれいでしょ。ほんとはハッカの葉を入れるといいんだけれど……。春におすましの吸い口に入れてもいいわね。」

「桜の花はよく結婚式場で出ますね。」

「そうね、ランの花の塩づけとか、お茶の花とかね。あれはお茶をひかないようにという意味で使うらしいわよ。ほら、うまくいかない時に、お茶をひいて帰ると言うでしょ。」

「同じお茶でも花一つで雰囲気が変わって、

とてもいいですね。」

「最近流行のコーヒーや紅茶はいかがですか。」

「そうね、私はあまり甘い甘いお茶は好きではないわね。」

先生はいろいろな日本茶をそろえておいて、その時の気分によって入れて飲むのが最近の楽しみだそうです。

「ところで先生のご趣味は何ですか。」

「そうね、近頃だんだん趣味もなくなつてね。」

「でも、仕舞をなさるとかうかがいましたが、いつ頃からですか。」

「戦後すぐに始めて、ここ二・三年はやめているのよ。」

「どういうきっかけで始められたのですか。」

「佐賀では謡で始めて謡で終わると言われる位だったから、我家でも素人ですわいて、何となくそういう雰囲気だったのね。私もひととおりのお茶やお花、お香も習ったのよ。」

「え／＼たくお香ですか。」

「そうよ。たぐのに作法があつて、灰の作り方とかいろいろあるのよ。」

「今でも続けていらつしやるのですか。」

「いいえ、父に抹香臭いとか、精神を磨かないと、形だけ覚えてもしょうがないぞと言われたのでやめました。それで一番長く習つて

いたのが、仕舞と謡でしょうね。だから私は洋楽はピンとこないけれど、和楽は鼓や笛が鳴ると、何をおいても聞くぐらい好きなの。

でも、中の舞とか囃子のレコードをスピードをあけて聞くと、ジャズと同じ。お能の囃子はスピードがずつと遅いのね。」

「それは知りませんでした。どうしてわかつたのですか。」

「私も間違つて回して気がついたので。あら、ジャズと同じだわつて。」

「能の舞の動きに何が表現されているのか、あまりわからないのですが。」

「私もはじめて十年位は何もわからず、ただ模倣のみで、節を覚えるとか、笛のオヒヤラヒュー、ヒューウィーオヒヤイ……。ホウホウヒューと覚えて、ホウホウヒューの時に拍子を打つとか、舞の格好を覚えるとかで、十年たつて同じものを何回か舞っているうちに、情景が浮かぶようになってきた。でも不思議にけいこはやめなかつたのよ。」と目を輝かせて話してくださいました。他に、本や最近の学生について話しは尽きず、先生のほんの一面しか紹介できず残念です。私達の好みで、お茶とお能の話で終始してしまいました。あしからず……。

(中石・江口記)

# アット・ホーム

丸山 先生

つつじの薔が、ぼつぼつほころびだしたころ、弘明寺公園を通りすぎ先生のお宅に伺いました。やさしい奥様が暖かく出迎えてくださり、子供達の書いた絵や作品が飾ってある応接間に通されました。この応接間が、いかにも幼児教育科の先生らしく印象的でした。お訪ねした時、展覧会に搬入するのを待つ、絵画三点が壁にたてかけてありました。「額入れの場面を見せてあげようと思っていたんだよ。」と、早速絵ははずされ額に入れました。私達は初めて五十号という大きな額入れを、



お手伝いさせていただき興奮してしまいました。この初公開の絵を、二階の涼しく見晴らしの良いお部屋に持ってゆき、遠ざかって見たり、近寄って見たりして、鑑賞に浸ってインタビュイーを忘れてしまうほどでした。

「僕はうまく話せないから、絵を見せるよ。」と先生。「今までに、ご自分の絵をお売りになったことはありませんか。」とお聞きしたら、売ったことはなく、全部手元に置いてあるそうです。又、以前に描いた物は下手に見えてきて、いやになるそうです。「それだけ上達しているっていうことかなあ。」と笑っておっしゃいました。そして、次々に作品を見せてくださり、その中には、お父様の作品、お祖父様(丸山晩霞)の遺作展の時のアルバム、家宝として大切にされている掛軸などがありました。思い出話の中に、小諸義塾の絵画教師をしていらしたお祖父様の話、島崎藤村の「水彩画家」という作品のモデル問題をめぐって、親交を温かくしていた藤村と絶交してしまっただけということなども伺いました。ここに、それぞれの作品をご紹介します。残念ながら、制作中の先生は、人が違ったみたい怖くなるそうです。そういう時は、奥様も絶対に近寄らないということです。

先生のお宅では、家を開放して自閉症の児童など、多くの問題をかかえた家庭の相談を受けています。絵を媒介として、どのような問題かを見分けるのだそうです。それはほとんどが、子供自身に問題があるのでなく、家庭環境及び親の責任なのだそうです。子供の扱いのこと、子供を理解しているかどうか。

「子供は白紙なんだから、被害者なんだよ。今もちやうど、問題をかかえた子供がいてね、だいぶ良くなってきたんだよ。この子が、もし病院に行っていたら、もう自閉症のレッテルを貼られてしまったところだ。」と先生は、大人の無神経さ、無関心さに腹を立てていらつしやいました。「子供の心を失ってはいけませんよ。だのに大人になると、自分の子供の時のことを忘れてしまうから……。」と嘆息していらつしやいました。いろいろ雑談していかうちに、先生の生活信条が何であるかがわかってきました。「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりによ。」だそうです。(マタイ伝・七章二節)

先生は、私達を玄関まで見送り、その後、お子さんとバレーボールを楽しむ、やさしいお父様の姿になりました。

(成川・渡辺・江口記)

# 覚え書 (七)

——女専・短大小史——

## 上市 二郎

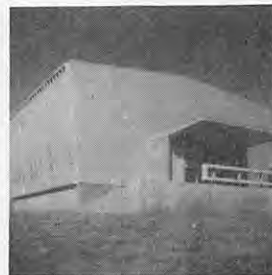
女子短期大学第二十六回卒業式が三月十七日(木)馬車道の市民ホールで挙行された。今は学生数も多くなって、学内では父兄を交えて式典を行う場所もない。今回の卒業生は六一〇名だ。昔の卒業生はこの数字を見て驚かされていることでしょう。今回卒業した学生は昭和三十一年、二年頃の誕生だが、私はまだ昭和二十七年頃の記録を追い続けている。前号は夏のキャンブの様子で終った。

さて、昭和二十七年、今から思うと先生方も少数でしかも若かった。この年の四月に本学の専任者として迎えた柳生先生宅をねじろにして、七月十二日の土曜日、親交会主催教職員のお海辺の集いが催され、一日を芽ヶ崎海岸で楽しく過ごしたのもこの頃だった。

長い夏の休みも学校は色々の行事や集中授業でまたたく間に過ぎて残暑の九月を迎える。

この年の春より計画されていたグレースセット記念講堂が完成し、九月二十日(土)午後二時より献堂式が挙行されている。教職員は全員出席、各校は学生、生徒五十名の代表者を出席させて式典が行われている。グレースセット生については学院小史の中で次のような記事がある。「先生は明治四十年(一九〇七)来日以來その永眠に至るまでの大部分を関東学院およびその前身東京学院のためにささげつくし、戦時中も帰米せず終戦の昭和二十年(一九四五年)ようやく帰国の途につく直前厚木米海軍飛行場に於て永眠されたことは哀惜にたえない。学院は今グレースセット記念講堂を建て先生を記念している。先生は宣教師であると同時にすぐれた天文学者であり、一九二五年、夫人の病氣のため帰米中の四年間を加州オークランド天文台に勤務し、またミルスカレッツの教授を兼務されたものである」と。なお、「この講堂は新制作派の会員である山口文象氏の設計になるもので、ユニークなスタイルと内部構造は建築界の話題となった。」と記されている。当時使用していたのは戦災で焼け残った修理したトタン張りの屋内体操場が唯一の講堂兼用の建物だったので学生にとっては心より感謝する講堂であつた。

主に中学・高校の資金で建設されたので本学は後援会に依頼して二千元の特製ベンチを五十本購入し、協力したことを思い出した。



—設立当時のグレースセット記念講堂—

十月十三日より十八日まで関西・四国方面への旅行が行われている。天の橋立を皮切りに淡路島、鳴戸、琴平、栗林公園、屋島など、例年行われていた関西旅行と異り日程も長く、長距離で学生も大いに収穫があつたらしく、学校に帰ってからも暫くは話題が続いていた。その頃の記録は「大好評のうち無事終了せり」と書かれており、その費用が五泊六日で三千四百七拾五円となっている。

十一月三日(月)の文化の日に坂田院長が神奈川文化賞を受賞されている。そして、ハンソン先生が米国に帰られるため、十一月十三日(木)午後四時の船で横浜港を静かに去って行かれた。



学校祭は十一月二十一日、二十二日に催され、この折慣例の光畑先生指導になる第五回シェイクスピア英語劇が新しいグレセット記念講堂に於て上演されることになった。このときは、昼間部学生による「ウインザーの陽気な女房達」と夜間部学生による「オセロ」の二本立の上演だった。短期大学に昇格して二年目、大学の中心となる図書室が余りにも貧弱だったため、夏休みより続けられていた改修工事も、この頃完了して地下に新装なった図書室がお目見えした。新図書室では古い卒業生中田さんのご好意でオデオン座（伊勢佐木町にあった洋画上映館）の後援によるス



—スタッツ終えて—



チール展が開かれ、学校祭のいろどりを添えていたのを思い出す。記録には二十一日（金）は第二時限目まで授業を行い、午後は各クラス対抗のスタッツ大会、午後六時より英語劇の舞台稽古、二十二日（土）は午前十時より午後にかけて各クラス対抗のバレホール大会、午後六時より英語劇の夕べと記されている。シェイクスピア英語劇は指導に当る教師も仲々の重労働であろうが、指導を受ける学生も並大抵の努力では、あれだけのセリフを身につけ、その上演技することはできないだろうと、つくづく思った。昼間部の学生はともかく夜間部の学生は昼間職場を持っており、さらに夜授業終了後、午後十一時頃まで練習する姿を見ていると涙ぐましいものを感じざるを得なかった。しかし、苦勞して成し遂げた学生には良き思い出となっていることだろう。当時は色々な行事が盛んに行われたが、宗教活動も活発であつて心の糧が常に与えられていた。十一月二十一日の月曜日には「感謝の念」と題して平野恒子先生（現在横浜女子短大学長）の講演をもつて感謝祭礼拝が行われている。放課後各グループ毎に学生は分れて各方面の施設に花や果実をもつて慰問に出かけている。

さて、いよいよ師走を迎えることになるが、十二月に入つて最初の土曜日、六日には六浦に於て午後一時半より父兄会が開かれている。その席で明年家政科のみ先に移転することに關して相川部長より説明がなされている。この記録を読むと既に「六浦校地へ移つた折には女子の寄宿舎が必要であるが、どこにどのような形のものかを考えるか、そしてその建設費は……」などの話題が十一月中旬頃には出ていたのを思い出した。ところで、この移転に關する記録を捜しても見当たらないのが不思議だ。然し、現に昭和二十八年四月より家政科は六浦校地へ移っている。そこで、本部に尋ねてみると、昭和二十六年七月には既に短大が六浦校地へ移ることが決定していた。当時の理事会は「……大学は同じ校地で教育を行うことが望ましい……」との結論で、特に宣教師の方々の意見が強かったと聞かされたことを思い出す。そしてその時期は昭和二十九年よりとのことだった。そうすると二十六年の後半か二十七年の前半か、思い出せないが、この移転問題について教授懇談会が数回に亘り開かれ、論議が重ねられたが、仲々結論が得られなかったことを思い出す。当時はむづかしい問題だった。（つづく）

# 五十一年度

## 総会報告

毎年恒例の短大同窓会をかねた香葉会定期総会は、昨年五十一年度も六月最後の日曜日二十七日午後開催された。ここ数年、毎年六月最後の日曜日に行なわれている。この日をおぼえていただくとありがたい。

当日は天候にも恵まれ、会場のバンドホテル六階ホールには、卒業生、先生方約百二十名が出席した。午後一時、田牧洋子さん（短英二十七年卒 旧姓津野）司会による第一部礼拝で始まった。讃美歌二九八番「やすかれ、わがこころよ……」が響きわたる。日頃神様と疎遠の者ほど胸にじんとするらしい。奏楽がまたよかった。柳生二三さん（短英二十八年卒 旧姓古川）にお引き受けいただいた。ご主人の柳生直行先生も久々に出席され、愛する奥方様のピアノの音に目を細めて聞き入っておられた（と思えた）。

第一部礼拝は約十五分で終了。つづいて第二部総会。会計報告、事業報告、経過報告、新年度予算案と、議題のわりには所要時間五

分は上出来。予算案は無事承認された。いづれながら総会はずまらないか、短いのはありがたい。大切な総会議事を五分でかたづけるとはけしからんとおっしゃる方もいよう。が、心配ご無用。前もって幹事会、評議員会（各卒業年度各料より選出）で充分審議されてますので。

ついで、葛城容子さん（短国四十九年卒 旧姓植村）から、出席して下さった先生方の紹介があった。葛城さんはわざわざ新潟県から出てこられた。結婚の条件として、年一回の短大同窓会には必ず出席させることをご主人に認めさせるとのこと。みなさん、見習いましょう。

下田学長、加藤理事長、高梨合同窓会会長はじめ、出席して下さった諸先生方に深く感謝致します。

以後は、卒業生相互の、あるいは、先生方との歓談に花が咲いた。久しぶりの再会を樂しみに、毎年きまって顔を見せられる卒業生もかなりいる。遠方から参加される卒業生もいる。会場中央あたりのお若いグループに近づき、「あなたがたどこぞ」と尋ねたら、そのうちの一人から「熊本さ」という返事がきた。ちよいと木の葉につつまたくなるくらい

かわいい人だった。

眼下に港と山下公園の新緑を見下ろし、出席者相互の歓談はたえない。「あーら、あなたちつとも変わらないわね」（そんなはずはないと思うが）、「いーえ、もうおばあちゃんよ」（本心ではないらしい）。陽が西に傾むきかけた午後三時半、なごり惜しそうに（？）来年の再会を約束して散会した。

その来年の再会を果すべく総会が間近に迫っている。六月二十六日である。実際には卒業生の年一回の集いであるのに、「総会」という名ゆえに足の重くなることがあるのではなかろうか。「総会」を実質的に「集い」と読みかえ、ホームカミングとして気がるに出席すればよいのでは。

こういう集まりを計画する裏方さんは大変である。何といっても一番気をつかわれるのは香葉会会長の古城房子さん（短英二十七年卒 旧姓時田）だろう。香葉会会員も六千名を越えた。常日頃からの会長さんの御尽力には頭の下がるおもいである。ごころうさま。

〔報告者・御園幹事長〕

## 関東学院女子短期大学 香葉会

昭和 50 年 度 決 算				51年度予算
収 入 の 部	予 算	決 算	増 減	収 入 の 部
会費 (@3,200円×523名)	1,673,600	1,673,600	0	(571名) 1,827,200
合同よりの援助金 (@1,000円×523名)	523,000	523,000	0	571,000
前年度よりの繰越 会員よりの賛助金 (120名)	105,623	105,623	0	206,693
		115,970	115,970	50,000
合 計	2,302,223	2,418,193	115,970	2,654,893

支 出 の 部	予 算	決 算	増 減	支 出 の 部
事 業 費	600,000	550,000	50,000	300,000
総 会 費	180,000	185,730	△5,730	320,000
会 合 費	60,000	65,419	△5,419	70,000
通 信 費	40,000	31,690	8,310	40,000
交 通 費	60,000	44,510	15,490	60,000
事 務 印 刷 費	30,000	33,091	△3,091	30,000
給 与 費	460,000	491,160	△31,160	550,000
新 入 会 員 歓 迎 費	90,000	65,000	25,000	90,000
そ の 他 雑 費	20,000	0	20,000	22,593
子 備 費	32,323	15,000	17,323	100,000
合同分担金 @1,300円 (523名)	679,900	679,900	0	(571名) 742,300
基本金勘定へ繰出 次年度への繰越	50,000	50,000	0	330,000
		206,693	△206,693	
合 計	2,302,223	2,418,193	△115,970	2,654,893



賛助金をご寄付くださった方への

御礼とお願ひ

香葉会が発足して八年目になりました。機関誌「香葉」は、卒業生の方々のお便り、母校のニュース、先生方の近況などを会員の皆様にお伝えしたくて毎年一回の発行を目標に頑張ってきたのですが、昨年は赤字でとうとう休刊、諸経費の値上がりが原因ですが、一番の痛手は通信費です。「香葉」を皆様にお届けする送料だけで三十数万円かかります。止むを得ず賛助金のお願いをした次第ですが、前年度まで下記の方々から総額「十八万六千九百九十円」のご援助をいただきました。本当にありがとうございます。心からお礼申し上げます。

活動費には、毎年、新卒業生が納めて下さる入会金が当てられますが、会員は年々増加しますのに、お金は限られた額しか入りませんから、やりくりが大変です。香葉にとじ込みの、払込用紙をご利用下さって、賛助金のご協力を、今後ともよろしく、お願い申し上げます。

五十年年度賛助金寄付者(敬称略)

北川光子、小島純子、佐藤靖子、横山美和子  
川崎光子、神田史路、飯吉玲子、上野百合子  
岩崎尚子、松田初枝、井上則子、長谷川有紀  
森谷敦子、清水桂子、松本紀子、戸巻おかる  
浅水道子、別府弘子、山井映子、小林三恵子  
桐山則子、岡善幸恵、徐多恵子、福田知栄子  
須田瑠美、斉藤光代、菅原直子、磯部喜久枝  
白田修良、須田広子、安藤憲子、小林美代子  
鈴木幸子、鈴木信子、玉木宮子、中村はるみ  
長島百代、安沢みね、江幡玲子、渡辺富美子  
小川喜子、内田駒子、増田紀子、背木美代子  
外山道子、大川元子、納所節子、須山真智子  
大谷昌子、中江雅子、藤原具子、児玉三重子  
加藤恵子、中野和美、出栄美子、中村あい子  
小川良子、松田由紀、尾川昌子、野添夫志子  
西田節子、相馬栄子、織田明美、福田しほり  
芳垣恂子、川上妙子、新井良子、菅原千代子  
坂本洋子、千葉一枝、千田節男、関口千鶴子  
馬場幸子、林久美子、川西純子、米原香代子  
紙透洋子、小沢恵子、藤村千恵、清田恵美子  
今野澄子、浅葉昌子、小林朝子、本多きみ子  
金成京子、中川あや、藪登喜子、山本紀代子

石守まみ、土山典子、篠原愛子、島村美和子  
皆美弘子、飯島敏子、荻野昭子、野崎久仁子  
芹川静子、鈴木雅代、早川和代、池沢なおみ  
本多憲代、成川勝子、飯尾美文、川村喜代子  
葛城谷子、中野節子、西川圭子、有田モト子  
加藤孝、清水まり子、鈴木章、小林美和子、  
堺典子、加藤美和子、勝明子、中山美智子、  
瀧史子、松本智恵子、寺田きみ子、海老沢さ  
よ子 (以上一二〇名)

五十一年度

正村幸子、千葉裕子、古城房子、馬越千恵子  
西村恵子、金子貞子、長崎濱子、高野由美子  
鈴木悦子、金子宗作、金原幸枝、背木千恵子  
佐藤三郎、篠原繁治、細見愛子、増田美也子  
鈴木弓子、柳生二三、太田正道、福住理恵子  
西瀧京子、安彦潤子、田中暗子、加藤日出子  
田牧洋子、山川明子、沖田澄子、白田美智子  
村田祝苗、吉田澄子、山本吉枝、名塚貴美恵  
重田和子、平野弘子、小関樹、山崎由紀子  
(以上三十六名)

# 母校ニユース



退職

五十年

国文科—大城富士男先生・日向一雅先生

幼児教育科—望月亨子先生

英文科—田辺正子さん(短英四十八年卒)

家政科—近藤瑞枝さん(短食四十九年卒)

家政科—高橋美晴さん(短食四十六年卒)

図書室—清水明代さん(短国四十八年卒)

学生課—赤井紀子さん(短国四十七年卒)

入試課—池田信夫さん

五十一年度

英文科—乾 幹雄先生

家政科—細見愛子さん(短家四十二年卒)

図書室—田中悦子さん(短英四十六年卒)

庶務課—石川幸子さん(短家四十八年卒)

学生課—高橋民子さん(短家四十六年卒)

入試課—上市不二恵さん(短国四十四年卒)

長い間ごくろうさまでした。

新任

五十一年度

国文科—土井清民先生

家政科—和田淑子先生

幼児教育科—近藤 弘先生

一般教育—山下輝彦先生

英文科—忍谷 幸さん(短英五十一年卒)

家政科—平本周子さん(短食五十一年卒)

木村真智子さん(短食五十一年卒)

幼児教育科—中石みどりさん(短幼五十一年卒)

(卒)

教務課—赤井千里さん(短国五十一年卒)

学生課—大場みえさん(短食五十一年卒)

渡辺生子さん(短英五十一年卒)

図書室—黒坂紀代子さん(短国五十一年卒)

体育館—西沢澄子さん(短国五十一年卒)

五十二年

英文科—深沢広助先生

国文科—千葉義孝先生

幼児教育科—大木瑛子先生

家政科—和泉朱見さん(短家五十二年卒)

幼児教育科—小川恵子さん

学生課—加藤広美さん(短英五十二年卒)

入試課—血脇敏雄さん

堀越絹代さん(短国五十二年卒)

体育館—田中啓子さん(短家五十二年卒)

図書室—辻真由美さん(短国五十二年卒)

以上の方々が母校の発展のために貢献なさっ

て下さっています。

## 五十一年度体育祭

第四回短大体育祭が六月十六日(休)・十七日

(休)の二日間で行なわれました。今年は学生・

教職員が事前に練習を積み重ね、見事な結果

をおさめました。

結果は次の通りです。

バレーボール(三十一チーム)

優勝—幼一C・準優勝—家一C・三位—英

一B・三位—家一A

卓球(二十八チーム)

優勝—教員・準優勝—幼二B・三位—職員・

三位—幼一C

◎総合優勝—幼一C

## ☆クラブ紹介

今回は、ここ二、三年に出来たクラブ・愛

好会をご紹介します。

▽まんが愛好会

私達まんが愛好会のモットーは、「愛とロ

マンの果しなき追求」です。未熟ながらも日

夜努力を重ね、お互いに励まし合いながらべ

んを走らせています。

### ▽社会福祉研究愛好会

十四人の女子が一生懸命活動しています。

私達は、ボランティア活動を中心に、その中で社会福祉とは何かを考えていきたいと思っています。又、手話や点字なども積極的に勉強しています。

### ▽落語研究愛好会

出来たばかりでまだ伝統がありませんが、これから私達で築きあげたいと思っています。

内容は、古典落語の鑑賞と実践、時代背景の研究です。又老人ホームを慰問してボランティア活動の一端として社会に貢献しております。

### ▽剣道部

私達、剣道部の歴史は二年目、部員九名とささやかではありますが、皆、一致団結して頑張っています。いつもはかわいい、ファッショナブルな女の子なのに体育館へ行くと早変わり。りりしいまなざし、熱の入った気合い、冬は雪の降る日も裸足、夏は防具に身を包まれて、それが剣道です。

### 香葉会事務局担当者紹介



前任者の森下友恵さんの後を受け、今年一月より、新たに伊藤玉枝さん（短英五十一年卒）が事務局の仕事を担当してくださっています。毎週月・水・木の三日、午前九時半より午後四時半まで短大の庶務課におられます。おしとやかで口数の少ない方ですが、心はしっかりしていて、熱中して仕事をなさっています。

香葉会についてのお問合わせは伊藤さんへどうぞ。

### 編集後記

「香葉」七号の出来上がりはいかがですか。何しろ二カ月間という急ピッチな編集でしたので心配です。インタビューでは、教わったことのない他科の先生方と話が出来、大変楽しい時を得ました。

原稿を書いてくださった方には、編集委員一同ご協力に感謝しています。



江口・黒坂・渡辺・中石・成川



## 英 文 科

語学コース  
文学コース

## 家 政 科

家政専攻  
食物栄養専攻

## 国 文 科

## 幼 児 教 育 科

推薦入学	面接日	12月17日(土)
一般入学	試験日	第1期2月3日(金)
		第2期3月3日(金)

# 関東学院女子短期大学

〒236 横浜市金沢区六浦町室の木77 ☎045(701)3189(代)

案内書・送料共700円 請求および問い合わせ先・本学入試課

関東学院同窓会・香葉会誌